

飛躍

HIYAKU

第281号

TOKAI UNIVERSITY **TAKANAWADAI** JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL



東海大学付属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2009年10月1日

●発行者/東海大学付属高輪台高等学校・中等部 校長・杉一郎

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate thy thought in thy early days

若き日に汝の体躯を養え

Make thy body strong in thy early days

若き日に汝の智能を磨け

Improve thy wisdom in thy early days

若き日に汝の希望を星につなげ Chain thy hope to the stars in thy early days

TOP*NEWS 学園オリンピック(スポーツ大会)男子総合3位 学園オリンピック(文化部門)入賞者9名(音楽部門1名含む) 特別奨励入学制度による合格者6名 特別技能推薦制度による合格者1名



学園オリンピック文化部門受賞者のみなさん
後列左から大関くん、櫻井くん、中山さん、西川さん、長瀬くん
前列左から金山くん、戸張くん、赤木くん



第3回特別奨励・特別技能内定者のみなさん
後列左から青柳くん、小川くん、大沼くん、齋藤くん
前列左から松浦くん、戸張くん、金山くん



学園オリンピック(数学部門)



夏期カナダ短期留学

栄光を目指して

2009年度 東海大学学園オリンピック

文化部門

今年度の学園オリンピックにおける本校の1次審査通過者は19名でした。1次審査を通過した生徒は夏期休暇中に東海大学 婦恋高原研修センターでの夏季セミナーを受講し、そこで最終の2次審査を受けました。その結果、本校生徒8名が入賞しました。さらに音楽部門では1名が銅賞を受賞しました。3年生で優秀賞を獲得すると、東海大学付属高等学校特別奨励入学制度規程第2条により、適性審査のある学科を除き本人が希望する学科に入学が認められ、さらに25万円の奨学金が授与されます。今後も希望を星につないで頑張ってください。おめでとう。

部門別 受賞者

国語	佳作	中山 瑠璃	2年	4組
	佳作	西川 佑依	2年	2組
数学	優秀賞	赤木 洸仁	2年	5組
	努力賞	櫻井 康裕	1年	9組
理科	努力賞	長瀬慶太郎	3年	B組

芸術【音楽】	銅賞	小川 茉莉	3年	2組
知的財産	優秀賞	戸張 翔太	3年	5組
ディベート	優秀賞	金山 照良	3年	2組
	奨励賞	大関 翔輝	1年	3組

優秀賞を受賞した皆さんの喜びの声を紹介します。



充実した6日間

金山 照良

3年2組 葛飾区立新宿中学校出身

2年連続ディベート部門で学オリに参加し、昨年よりレベルアップした自分を見せられたと思う。同時に1つの問題を肯定と否定の両面から見極めるのが必要とされるディベートは、奥深いものだと思わせて感じさせられた。あの6日間に、全国に散らばる付属校の仲間達と交流し、選抜メンバーで大学の先生方とディベートの真剣勝負をした日々は非常に充実し、深く記憶に刻まれた。もう生徒として参加できないのが残念だが、学オリに関わったすべての人に感謝し、学オリで得たものを将来の自分へ繋げていきたい。



新しい数学

赤木 洸仁

2年5組 大田区立志茂田中学校出身

僕は最初、夏季セミナーに参加する気になれませんでした。なぜなら、学オリに行くのが初めてだったということもあり、他の参加者はみな真面目で難しいことばかりやるのではないかと不安だったからです。しかし行ってみると、参加者はみんな楽しく良い人ばかりでした。今回僕は学オリに参加してとても大きな収穫がありました。それは今まで知らなかった数学を知ることができたということです。これまで僕が知っていた数学は1人で黙々と問題に立ち向かうというものでした。しかし学オリでは授業も班全員、部門全員で協力して1つの問題や課題に挑戦しました。複数人で問題を解くこと、そしてなによりも“答えのない数学”というものを知ることができ、僕にとって学オリは新しい数学と出会えた場でした。みんなで悩み、協力し、発表する力をつけることができ、とても充実した内容の濃い6日間になりました。

2009年度 東海大学学園オリンピック

スポーツ大会

総合 高輪台高等学校 男子 第3位

種目	順位	学年	氏名
柔道	男子100kg級	3位	2年 野勢 啓人
	男子73kg級	3位	1年 徳 良介
	女子	3位	1年 田崎 梨菜
剣道	男子団体	3位	
陸上	男子走り幅跳び	3位	2年 白滝 理博
	男子110mハードル	3位	3年 井上 裕喜
卓球	男子団体	2位	
	男子シングルス	3位	3年 福島 康平
ソフトテニス	男子団体	3位	
	女子個人	2位	1年 高橋・小口
バドミントン	男子団体	2位	
	女子団体	2位	
サッカー	男子	2位	



航空操縦学専攻(パイロット養成) 本校から2名合格内定



戸張 翔太

3年5組
目黒区立第十中学校出身

「パイロットになって一緒に空を飛ぼう」幼少の頃、家族旅行で飛行機に乗った帰りに機長から、この言葉をかけてもらった時の感動が忘れられず、パイロットになることを目指してきました。しかし、パイロットになるためには、4年制大学を卒業後、各航空会社の自社養成に挑戦するか、航空大学校を受験するか、とても狭き門です。しかし、東海大学に航空操縦学専攻ができると知り迷わず高輪台高校を受験しました。入学後は、とにかく何事にもチャレンジすると決めました。部活動はもちろん、勉強、特に英語力、そして学園オリンピック。中でも学園オリンピック知的財産部門に参加し続けた3年間では、とても多くのことを学ぶことができました。与えられた課題を解決する力、他の付属校生と共に生活することによりコミュニケーション能力や協調性、大学の教授の方々や他校の先生方の講義やご指導により知識や人間性も高めることができたと思います。そして、この貴重な経験は社会に出てから、更にパイロットになった時に必ず役立つと思っています。今回、合格してパイロットへのスタートラインに立つことができたのも周りでサポートして下さった先生方や家族、そして仲間たちのお陰だと思っています。この感謝の気持ちを胸に、長く険しい道ですが空の安全に欠かせない責任感、協調性、そして豊かな人間性を培い、健康に留意しつつ努力し続けていきたいと思っています。



小川 竜太郎

3年9組
金沢市立清泉中学校出身

僕は以前から飛行機を利用する機会が多くあり、ある時、コックピットを見せてもらったことがあります。それがパイロットになりたいと思うようになったきっかけでした。高校では、英語力を伸ばすため、積極的に英語で会話をしました。また、健康のために食事や運動にも気を使いました。もちろん学校の成績も力を入れ、特に学園基礎学力試験では100番以内で3年間上昇し続けるように努力しました。しかし、ただパイロットになりたいという漠然とした夢はあっても、具体的な志望理由を考えることにとても苦労しました。

僕は高輪台高校に入学した時、航空操縦学専攻に合格できたら、それが高校生活で1番の思い出になると思っていました。しかし、今の僕の1番の思い出は、合格したことよりも仲間のありがたみを感じることができたということです。合格の知らせを聞いた後、たくさんの友人が祝ってくれたのは最高の幸せでした。合格できたのは、僕1人の力ではなく、周りの仲間に支えてもらっていたからだと。先生方や家族、そして僕の一番の応援団だった友人に、心から感謝しています。これからもこの感謝の気持ちを忘れないで、みんなに与えてもらったチャンスを無駄にしないよう、パイロットを目指して頑張ろうと思います。

第3回東海大学特別奨励入学制度6名・特別技能推薦1名の合格内定

今年度の第1回東海大学特別奨励制度による合格内定者45名は既に本誌7月号で発表いたしました。今回は第2回の発表です。東海大学では医学、看護、芸術などの各学科への進学希望者は、学力に加えて人間性や精神力、技能などの面で適性審査を受けなければなりません。その適性検査の可否が8月末に発表されま

した。そのうち成績優秀者は今年度の第2回特別奨励入学制度(特奨)による合格内定に該当します。また学園オリンピックで優秀な成績を残した2名の3年生もこの制度に該当します。今後も努力を惜みず、己の才能に磨きをかけて欲しいと思います。

東海大学特別奨励入学制度

氏名	組	進学先	出身中学
金山 照良	3年 2組	文学部 広報メディア学科	葛飾区立新宿中学校
大沼 雄貴	3年 4組	教養学部 国際学科	足立区立東綾瀬中学校
齋藤 貫介	3年 4組	観光学部 観光学科	墨田区立両国中学校
戸張 翔太	3年 5組	工学部 航空宇宙学科 航空操縦学専攻	目黒区立第十中学校
青柳 忠成	3年 7組	医学部 医学学科	川口市立戸塚中学校
小川竜太郎	3年 9組	工学部 航空宇宙学科 航空操縦学専攻	金沢市立清泉中学校

東海大学特別技能推薦制度

氏名	組	進学先	出身中学
松浦 寛輝	3年 7組	体育学部 生涯スポーツ学科	横浜市立共進中学校

夏休みの活動報告(その2)



インハイを終えて

レスリング 澤 祐基

3年7組 府中市立府中第一中学校出身

この度は、酒井先生と塚田先生の日頃のご指導と、皆様の支えのおかげでインターハイという大舞台に立つことができ、本当に嬉しく思っています。

本校にはレスリング部が無いため、普段は柔道部員として練習をする一方で大森学園の練習に参加させていただいていました。他校生であるにもかかわらず先生方並びに選手の方々に大変良く接してもらい、とても感謝しています。

試合は残念ながら敗れてしまいましたが、大切なことをたくさん学びました。私が最も強く感じたのは、自分は本当に多くの方々に支えられているということです。いつも自分を支えてくれている家族や試合での指示や様々な面でサポートしていただいている先生方、柔道部並びに大森学園レスリ

ング部関係者の皆さんに改めて感謝したいと思います。

インターハイは自分を成長させてくれる場でした。この経験を今後の人生に生かしていきたいと思っています。



本校校舎壁面の垂れ幕

中高生のための体験学習と交流会開催

8月6日から2泊3日で「中高生のための体験授業と交流会」が東海大学湘南校舎で行われました。学園の付属中高生を対象に行われ、本校から中等部の2名が参加しました。大学の研究室や施設を見学や実験を通して理工系の面白さに触れてきました。交流会では、大学院生や大学生と懇談し、進路を考える参考になったようです。

楽しく学べた科学

中山 裕之

3年B組 大田区立山王小学校出身

僕は、この体験学習でいろいろなことを学びました。その中でも一番印象に残っているのは、太陽光発電などのエネルギーについての実験です。モノを動かすにはどのくらいのエネルギーが必要かということを実験で確かめました。うちわをあおいでブレードに風をあてて発電させ、モーター車がどのくらい進むかを調べました。疲れるまであおいで風をあてたのに、思ったより車が進みませんでした。電気をつくるのは大変だということが実験を通してわかりました。

大学の施設を見学して、大学生がいろんなことにチャレンジしていることを知りました。そして交流会では、大学生の学校生活の様子が聞けました。また、他の学校の生徒と友達になりました。ぜひ次回も参加したいと思っています。



体験学習を通して

小島 僚太

2年B組 横浜市立境木小学校出身

僕はこの夏、体験授業を受けてきました。しかし、高輪台からは2名しか参加しなかったため、大学に着くまでは不安でした。宿泊先の部屋で、他の学校の人と一緒でした。みんな楽しい人ばかりで、部屋ではトランプをして、すぐに仲良くなれました。2日目は研究室の見学と色々な実験をしました。その中でも1番面白かったのは、「アイボを走らせてみよう」です。3〜4人のチームで、アイボの足を動かすプログラムを組んで、速さを競いました。同じチームの他の学校の人たちと色々な話をしながら、プログラミングしました。なかなか進まなかったり、くるくる回ってしまったりして、簡単にいきませんでした。でも、自分でプログラミングして動かすのがとても楽しかったです。

とても楽しい3日間だったので、帰るときは名残惜しかったです。また参加したいです。



カナダ短期留学に参加して

久下 侑子

1年2組 横須賀市立大矢部中学校

私は、今回が開催第1回目のカナダ短期留学に参加してきました。中期よりもかなり短い期間でしたがとてもよい体験ができました。気候も最高でした。私は英語がかなり苦手でしたが、このプログラムに参加してからは少し自信ができました。そして英語が好きになりました。カナダにはいろいろな人種の人たちがいるので、私が特別外国人だと扱われることはなく生活しやすかったです。

ホームステイでは、ホストファミリーがわかりやすく話してくれたので困ることはありませんでした。海外旅行と違って自分自身で、英語を“覚える”のではなく“使って”いかなければいけない

ので自然と身につけることができます。ホストファミリーも本当の家族として接してくれたので、私にとっても第二家族となりました。今回は2週間だけだったので、英語を使う生活に慣れたぐらいの頃に帰らなければいけないのが残念でした。ホームシックにもなりつつありましたが、国際電話を使うことによって安心しました。また家族の大切さも実感しました。今は“ホストホームシック状態”です。

語学学校では、いろいろな国の人がいて、国ごとに発音が違ってわかりにくかったのですが、みんな一生懸命英語を使って話していました。他国の友達もたくさんできました。来年もこの短期留学に参加したいと思います。



東海カルチャーセミナー

第4回「東海カルチャーセミナー」第1部は、本校吹奏楽部がマーチ「アルセナール」をはじめバレエ音楽「ロメオとジュリエット」から「みちのくひとり旅」まで、バラエティに富んだナンバーで約800名の保護者、生徒を大いに楽しませてくれました。第2部は東海大学男子バスケットボール部監督として全日本大学バスケットボール選手権大会2連覇を達成されるなど大学バスケットボール界に「東海旋風」を巻き起こされた東海大学体育学部競技スポーツ学科准教授の陸川章先生にご講演いただきました。講演後の質疑応答では保護者、生徒のみなさんから次々と質問が寄せられ、盛況のうちに幕を閉じました。

東海カルチャーセミナーに参加して

8月29日(土)、今年度も東海カルチャーセミナーが開催され三年連続で参加させていただきました。

第3部は吹奏楽部による演奏でした。今回のプログラムでは、楽器の演奏のみならず部員による合唱、そして畠田先生のソロの歌声まで聞かせていただき、本当に音楽が大好きな集団なんだと痛感しました。

第2部では東海大学男子バスケットボール部監督の陸川章准教授の講演を聴かせていただきました。高校から始めたというバスケットボールへの想いや経験を熱く語ってくださる先生の講演は、熱いモノを心に持つ人が大好きな私には大変興味深いお話でした。陸川先生がバスケットボールを通じて学んだことはスポーツのことだけに留まらず、精神力や人間関係にまで及んでおり、その経験を生かした指導を受けているバスケットボール部の学生さんが、心身ともにいろいろな事を吸収できることを羨ましく感じました。

短時間ではありましたが、先生のお話は、参加された保護者の方々、生徒の皆さんの心に響いたことと思います。

後援会学年部部長 西 礼子

余談ですが壇上から降りてこられた陸川先生は198cmの長身を折り曲げて深々と優しい笑顔でご挨拶をくださいました。その姿に、多くを経験してきた陸川先生のご苦労を垣間見た気がして、胸が熱くなりました。素敵な講演をありがとうございました。



中等部1学年だより

米作るより田を作れ。田を作るより心田耕せ。

学年主任 笹木 春光

これは有名な二宮尊徳のことばです。簡単に言えば「良い結果を得ようとすれば、まずその根本を正せ」という意味です。よい米を作ろうとすれば、まずその米を作る田を耕さなければならないし、田の土壌を肥やすためにはそれを作る人の心を耕し、その人の心を鍛えなければならない。心が根本であるということです。ところがこの肝心なところを忘れ、ただその結果だけを得ようと焦っているのが今日の社会だ、と尊徳は言っているのだと思います。

皆さんはどうですか？ 期末試験は終わりましたが、普段からコツコツと勉強して心を鍛えていましたか。部活動でも新人戦などがあると思いますが、普段から努力して心を耕していますか。努力もなしに良い結果を得ようと、試験の場・試合の場に臨み、いくら力んでももう手遅れです。皆さん、常に努力の種をまきましょう。

〈参考文献：『剣道いろは論語』 井上正孝 体育スポーツ出版社〉

夏休み 読書感想文

三国志

知名 直緒也

1年A組 川口市立本町小学校出身

三国志について知ったのは、戦国無双というPSPのゲームからでした。ぼくは、そのゲームにはまってしまい、中国の歴史に興味を持ちました。そこでこのゲームの題材になっている三国志の本を読んでみることにしました。そもそも三国志については全く知らなかったの、そのことから調べるようにしました。

三国志とは、正式には「三国志演義」といい、14世紀後半に書かれた中国の歴史小説です。作者は、羅貫中という人物で、黄巾の乱から魏・呉・蜀の三国が成立し、晋がこれらの三国を統一するというおおよそ百年にわたる史実です。

その中で一番印象が強かったのは、劉備・関羽・張飛の3人が義兄弟の契りを結び、まず関羽が呉に討ち取られ、次に張飛が手下に裏切られ死んでいった事によって劉備が仇を討ちに行く場面です。なぜなら、本当の兄弟ではないのに義兄弟のためを思い、自分の命を捨てていくような無謀な戦いに出陣していったからです。また、劉備が戦いによって討たれますが、丞相の孔明が自らの知謀でピンチを切り抜けていくところも強く印象に残りました。この場面でもしぼくが劉備の立場であったら、同じ行動をとると思います。なぜなら、何十年も長い月日の中で、生死を共に戦い、悲しみや喜びを共に分けてきた仲間だからです。

この小説は蜀の偉大な英雄達の強い友情や熱い思いなどを語ったものであり、また、三国の土地をめぐる争いを描いたものだと思います。蜀の人々は劉備の優しさや寛大さなど、心のある人物だと思っていたと思います。なぜなら、劉備は降服してきた人々を大切に、仲間や国などのことをしっかり考え、どうしたら蜀の人々を幸福にすることができるかを考えていたからです。

今回この三国志を読んで歴史についてもっと知りたくなったので他の本も読んでみたいと思っています。また、歴史の本だけではなく、昔あった出来事などについて調べたり、考えたりして色々なことを知っていくことに力を入れようと思いました。

佐賀のがばいばあちゃん

本内 信之介

1年B組 台東区立富士小学校出身

ぼくは、「佐賀のがばいばあちゃん」というお笑い芸人の島田洋七さん(B&B)が書いた本を読みました。元は自分で作って売り出したのが最初です。

この本の内容は、母親が仕事で忙しいせいで広島から佐賀のおばあちゃんの家へ預けられた話です。そのおばあちゃんの家はすごく貧乏な家で、金がかかることは一切やらせてもらえなくて、やらせてくれたスポーツは、「野球」と「走る」だけでした。さらに家に帰って「おやつある？」と聞くと「田中さんの柿が食べ頃だ。」というぐらいの貧乏さでした。でも、「貧乏には二通りあり、うちは明るい貧乏だからよか。」と、すごく前向きに生きていてすごいと思いました。

ぼくが一番面白かったのは、主人公の洋七さん(本名・昭広)がテストの時のことです。昭広は、スポーツ万能でしたが、勉強はできなかったため、テストで困った時のばあちゃんの言った言葉が面白くて、ぼくもやってみたくなりました。その内容は、英語が分からなかったら、「私は日本人です。」と書き、国語の漢字が分からなかったら、「ぼくは、ひらがなとカタカナで生きていきます。」と書き、社会の歴史が分からなかったら、「過去にはこだわらせん。」と書くようにばあちゃんが昭広に教えるところでした。たぶんぼくがこれをまねしたら、先生に怒られるだろうと思います。でも、やってみたい気持ちになりました。

また、この本を読んでちょっと運動会に対しての考え方が変わりました。ぼくたちは運動会に親が来てくれて、おいしいお弁当を当たり前前に食べていましたが、昭広は、母親は仕事で来られなくて誰も運動会を見に来てくれないし、弁当も貧しいから梅干しとごはんだけという悲しい弁当なので、ぼくたちは、とても恵まれているのだなと思いました。また、話の中で先生が昭広の弁当を見て、「腹が痛いから弁当を交換してくれ。」と嘘をついて、せめて弁当ぐらいはいいものを食べさせてあげようとして、そのことは代々の担任の先生に受け継がれていきました。これは、昭広には分からないようにした先生達の優しさなんだと思いました。

ぼくが一番感動したばあちゃんの言葉は、「世の中には、病気で死にたくない人がいっぱいおるのに、自殺なんて贅沢だ。」という言葉です。また、絶対忘れてはいけないと思った言葉があります。それは、「人間は死ぬまで夢を持って、その夢が叶わなくてもしよせん夢だから。」というものです。その言葉を読んだ時に、別に夢が叶わなくてもただの夢なのだからいいのだと思えるようになりました。この本を読んだおかげで物事をとても前向きに考えることができるようになり、たいへん良かったです。

中 等 部 2 学 年 だ よ り

水泳実習・English Summer Camp

水泳実習

7月11日と9月8日に東海大学湘南キャンパスにおいて水泳実習が行われました。7月の水泳実習では、交通渋滞で予定よりも時間が短縮されてしまうというアクシデントもありましたが、大学生の熱心な指導のおかげで、泳ぐことの楽しさを感じたり、自分なりに目標を持って挑戦したり、それぞれが充実した時間を過ごすことができました。また今年度2年生は、水泳の前後で7月には体力測定を、9月には大学見学を行いました。体力測定では1年生の頃の記録と比べて、この1年間の成長を感じることができたようでした。今から来年の水泳実習が楽しみです。



楽しかった水泳実習

遠藤 海南

2年A組 横浜市立大口台小学校出身

私はもともと運動が得意な方ではなく、水泳もあまり好きではありません。小学校の時に少しだけ水泳教室に通ったことがありますなかなか上達せずやめてしまいました。今回の水泳実習も本当は参加したくありませんでした。けれども実際に参加したら意外に面白かったです。私は一番泳げないコースに参加したのですが無理に泳がされることもなく自由に水泳を楽しむことができました。また、宝探しやボール運び競争などの1つ1つのゲームがとても楽しくて面白かったです。私は水泳実習をととても楽しくしてくれた大学生のみなさんにとても感謝しています。9月にある2回目の水泳実習に参加することが楽しみです。今回の水泳実習は参加できなくて見学だった友達が多かったので、今度は一緒に泳ぎたいです。

夏の日思い出

山木 星

2年B組 渋谷区立加計塚小学校出身

僕たち中等部は、7月11日に東海大学の湘南キャンパスに行き、水泳実習と体力測定を行いました。

湘南へは、1度全員で学校に集合したあとにバスに乗って行きました。渋滞していて2時間くらいかかってしまいました。バスに乗っている時に、もしかしたらプールで泳ぐ時間がなくなってしまうかと思って不安になりましたがちゃんと入れてよかったです。

そして、食事をしてから体力測定に挑戦しました。去年よりいい結果が出るようにどの種目も全力をつくしました。結果としていろいろな種目で去年よりいい記録が出せてよかったと思いますが、どれもそこまで記録が伸びていたわけではなかったなので、来年はもっといい記録が出せるようにしたいと思います。今年の体力測定は中学2年生のいい思い出となりました。

English Summer Camp の様子

8月25日～28日の3日間、群馬県の東海大学嬬恋高原研修センターにてEnglish Summer Campが行われました。22人ものネイティブスピーカーに囲まれて、始めはとまどっていた生徒たちも、帰る頃にはすっかり打ち解けて、別れを惜しむ場面も見られました。英語でのスピーチや劇、暗闇でのダンスパーティーなど、普段の授業では体験できない貴重な経験をすることができました。



さっそく仲良くなりました



チーム名を発表



力比べ!!



テンション上げて走り回るよ!!

中部3学年だより

思い出深い水泳実習

1年生の頃から今回で6度目、そして最後となる水泳実習が行われました。1年生の頃は泳ぎが苦手だった生徒もこの水泳実習を通じて水泳に楽しさを見出せるようになりました。そして今回3年生にとって最後の水泳実習が行われました。この6度の水泳実習を通じて、彼らにとって勉強とは違った別の面での成長ができたのではないかと思います。また、1年生の頃に行った体力測定も行い、「身長が伸びた!」と喜び、2年間の成長を自分たちで実感していたようです。

最後の水泳実習

三上 真央

3年A組 横浜市立市場小学校出身

9月8日、私たち3年生にとって最後となる水泳実習がありました。1年生の時に初めて東海大学のプールを見て、大きなプールだけでなく、サブプールもあり、足がつかない程の深さに驚いたのをよく覚えています。私は小学校の時に水泳を習っていましたが、得意ではなかったので中級で泳ぐことにしました。大学生たちはとても親切で楽しく泳げるように指導してくれました。ビート板を使って、バタ足・背泳ぎの練習をして最後に大学生も混ざってリレーをしました。結果は負けてしまいましたが、みんな一生懸命泳ぎました。これで水泳実習が終わってしまうのはとても残念です。水泳はもちろんのこと、往復のバス、学食、体力測定と楽しい思い出になりました。

三年間の水泳リレー

加崎 祐也

3年B組 墨田区立第二寺島小学校出身

僕はいつも水泳実習があるととても楽しみです。1年生の時から3年生までの間に6回もありました。僕は、1年生から2年生までの4回は上級者コースにいました。水泳には自信があったので上級者コースを選びました。このコースの練習は意外にも難しかったので、すぐに疲れてしまいました。しかし、最後にリレーがあると聞いたので、一生懸命頑張りました。2年生までの4回のリレーのうち、すべて勝つことができ嬉しかったです。3年生になると、上級ではついていけなくて中級コースに変更しました。中級でもリレーがあったので、本気で泳ぎ、ここでもまた勝つことができました。3年間、6回の水泳実習のリレーを無敗で終えることができ、とても良い思い出となりました。



ボールをバトンにリレー



あっ握力が!



腹筋何回できるかな



身長伸びた?



体脂肪率も測ってみよう



冷たくて気持ちいいよ

高校1学年だより

～剛健旅行～

7組学級担任 山崎 一沙

7月15日(水)から16日(木)にかけて、群馬県の嬭恋にて第41回剛健旅行が開催されました。

実は私も、高校1年生と同じく初めての剛健旅行でした。天候にも恵まれ、都会では感じることができない大自然の中、生徒たちは良い環境で歩くことができたようです。

私はゴール地点である東海大学嬭恋高原研修センターにて生徒たちの到着を待っていました。1年生は男女共にほとんどが完歩し、なかには上位入賞した生徒もいました。高校女子7位の藤井弘絵さん(8組)、8位の戸田有穂さん(8組)、9位の石川望瑛さん(2組)は、ほぼ同時にゴールし入賞しました。また、高校男子でも7位の薄田一平くん(2組)が先輩の中に1人、入賞しました。1年生で上位入賞というのはとても素晴らしいことだと思います。その他にも、ゴールしてきた生徒は友達と喜びを分かち合ったり、足を引きずってきたりと様々な姿が見られました。どの生徒も表情を見ると、歩き疲れた顔のどこかに達成感が溢れているのが見受けられました。

剛健旅行は「人生の縮図」のようなものではないかな

と思います。人生において人は何歳になっても目標に向かって歩いていきます。その目標達成への道が険しく、辛く、苦しくとも越えなければいけない壁がいつか現れます。その壁を越えた時に初めて目標地点が見えてきます。目標地点が見えるまではとても辛く苦しいものなのです。そして、目標地点へゴールした時に初めて達成感が生まれます。その辛い思いも、「やって良かったな」というプラスのものに変わります。剛健旅行においても、人生においても、目標達成は簡単なものではありませんが、目標達成した時の充実感は何とも言い難いものになるでしょう。この剛健旅行を通してそれを感じることができる高輪台生は、とても幸せだと思います。そして1つの達成を胸に更に飛躍していつてもらいたいものです。



夏過ぎて読書の秋…

学年所属 石井 達人

今年の夏は気候変動を象徴するかのような集中豪雨や、竜巻や地震が日本各地を襲い、都会で他人ごとのような気でいた我々に自然の驚異が身近に起きることを見せつけました。その時、我々の知恵は過去に学べといういろいろな災害記録を集め、どんなことが起きたのかを調べ、その傾向から今後どうなるのかを予測することで災害に備えようとしています。

さて、人生も先が読めないと言えば天気予報と同列とも言えますが、数日先はともかく3年後、10年後…の自分はどうなるのか、なかなか予想できないのが一般的だと思います。しかし、天気予報と決定的に違うのは、自分が立てた人生の方向性や、希望はその意志によってその方向に向かわせることができることです。中には思いもしない困難が行く手をはばみ、迂回や変更を余儀なくされることがあっても意志は自分で決定できるからです。しかし、1度しかない人生の設計はそうは変更できませ

ん。そこで過去のいろいろな人たちの人生を疑似体験して自分がどう生きるのかを予想し、やがて自分の意志として方向性を見つけていくのです。そこで他人の人生を疑似体験できるのが本なのです。本校ではそれを手助けするために全校生徒に朝読書を推進しています。朝のたった10分間ですが1週間で50分、1年間で、50×35週＝1750分(約29時間)にもなります。それだけでも何人の人生を体験できるでしょうか。ぜひ取り組んでほしいのですが、生徒の中には残念ながら宿題や、睡眠を優先する人がいます。眼先のことでなく、自分の人生設計をどう構築するのか、その判断の元になる人生の資料を集めていくことが今最も優先されることではないでしょうか。本校には蔵書数2万8千冊の図書館があります。読書の秋です。どんな未知の人生があるのか探しに行きませんか。4月から全校で取り組んできた朝読書ですが、私が担当する1年生のクラスの朝読書はほとんどの生徒が落ち着いて読書に集中しています。これからも注意されて読書を始めるのではなく朝読書が楽しみになるような本の魅力に取りつかれて欲しいと願っています。

高校2学年だより

進路

学年主任 米谷 昭人

現在まで進路決定に向けて考え、動いていたと思いますが、後期からはもっと考え、動いていかなければなりません。その最初として、三者面談があります。三者面談を通して現実的に考え、進路決定をしなくてはなりません。そのためには、保護者と進路についての会話をたくさんしてください。三者面談をする前に学級担任や他の先生から情報を得て保護者との会話の材料にしてください。

希望学部や希望学科に成績が足りないからあきらめるといったことがないようにしてください。そのためには、「生活の基本をおろそかにしない。」朝起きたら両親に挨拶をする、感謝の気持ちを言葉にするなど、「毎日の積み重ねなくして勝利なし」好不調に関係なくこつこつと現在やらなければならないことをやり続ける、「どんなに小さな事であっても必ず準備がいる」安易な気持ちがいつか自分の墓穴を掘ることにつながる。このようなことを心掛けて毎日努力してほしいと思っています。

イライラしている時にイライラを人にぶつけない

1組学級担任 高橋 光太

最近私が読んだ本で、中谷彰宏さんが書かれた「運命を変える50の小さな習慣」という本があります。その中で、先日の全体朝礼でも2学年主任の米谷先生が言っていた「良い方向への習慣」というものについて非常に興味深い内容があったので紹介します。

あなたは怒っているとき、どのような態度をとりますか。通常、人は嫌なことがあると怒りをそのまま誰かにぶつけて晴らそうとします。怒りをババ抜きやババミたいに誰かに渡して楽になろうとしてしまうのです。ところが、そのような方法で怒りは晴れますか？例えば、誰か

に悪口を言われたとします。それに対してあなたは反応して、しなくてもいい喧嘩が始まってしまうことが、よくあると思います。売り言葉に買い言葉になってしまう状態です。しかも、腹立たしさを誰かにぶつけることによって、ますます自己嫌悪になってしまうはずです。

そこで、次のような変化を自分自身で心掛けてみてはどうでしょうか。嫌なことがあった時は、逆に誰かにいいことをしましょう。どんな些細なことでも良いと思います。電車やバスで席を譲ってあげるとか、ありがとう一言声をかけるなどです。むしろ、小さなことの方がストレスを感じなくて良いのではないのでしょうか。嫌なことをいいことに変換していくことで、自分自身が癒されれると思います。

さあ、明日から、いや今日から早速実行してみませんか。

高校3学年だより

高校生活5/6を終えて

4組学級担任 石井みなみ

夏休みが明け、真っ黒に日焼けをして登校してきた生徒たち。その元気いっぱいな生徒たちの顔つきから、高校生活最後の夏が充実していたのだと感ずることができます。

毎年夏が来るといいますのは、高校生活最後の夏。当時この高輪台高校で吹奏楽部員だった私は、仲間と共に都大会進出を目指して日々の練習に励んでいました。時には仲間とぶつかることもあったし、練習が辛いと感じることもありました。目標を達成したいと思う強い意志があったからこそ経験することができたのだと、今ならわかります。その夏私たちは高輪台高校で初めて予選を突破し、都大会に出場することができました。都大会では銅賞と、良い賞ではありませんでしたが、終わった後に残ったのは、後悔ではなく爽やかな達成感だったのを覚えています。

高校3年生も半年終わり、部活動を引退する生徒も増えてきました。引退の瞬間に流す涙や笑顔は、今まで部活動を本気で頑張ってきた証拠だと思います。本気で頑張った高校時代の記録は、大会の記録よりもその人の心と体に残るものです。また共に闘った仲間との絆は、一生切れることの無い財産になるはずです。今までの経験を大切に、そして頑張った自分に是非誇りを持ってもらいたいです。引退を迎えていない部活動も、たとえ辛い時があったとしても、最後まで全力で走り抜けてもらいたいです。

後期に入ると、卒業証書授与式を迎えるまでに登校する日数はわずか70余日。ここで一度立ち止まって、今まで過ごした高校生活を振り返ってみましょう。やり残したことはないですか？これから挑戦してみたいことはありませんか？残りの時間でできることもまだまだ沢山あると思います。建学祭やスポーツ大会などの学校行事や勉強はもちろん、部活動に遊びや恋？も、何事も全力で取り組み、皆さんで素敵な卒業証書授与式を迎えましょうね。私たち教員も微力ではありますが、そんな頑張る皆さんの高校生活をサポートできる様、精一杯頑張ります！！



体育移動教室



授業風景(科学倫理)



調理実習の様子



部活(野球部)

2009年度学校運営方針

中等部・高校・大学10年間の一貫教育の充実 中等部TTによる授業の開発、シラバスのCD化に伴う 内容の大幅な見直し

2007年度開校した東海大学付属高輪台高等学校中等部の教育活動を充実したものと
するために、全教職員で協力体制を作ります。

本校の教職員が中等部と高等学校の6年間の教育に対して共通の認識を持ち、中・高の
所属にかかわらず全職員一丸となって指導に当たります。

中等部TTによる授業の開発のために、教務部、研究部、各教科会が連携を取りながら
大規模な授業改革を推進します。

中等部から、高校3年までの英語教育を推進するため、高校1、2年生でのカナダ短期留
学を立ち上げました。

シラバスを効率的に利用し最大限の効果が上げられるように努力します。さらに、シラバス
のCD化に伴う内容の大幅な見直しを更に進めます。

大学の連携を密にして、大学の先生方による学校説明、学部・学科説明、特別講座(第
3学年)の充実を図り、高大の一貫教育の充実を図ります。

中等部の完成年度として、各行事を確立し、見直しを行う

中等部最後の、そして最大の行事であるニュージーランド海外英語研修旅行を企画
します。

中等部単独の体育祭を企画するなど、各行事を再点検し、見直しを行います。

SSH活動報告

8月6・7日、全国のSSH指定校が参加した「平成21年度生徒研究発表会」がパシフィコ横浜でありました。本校から3年SSHクラスの川村君、河井君、吉田君が口頭発表、鈴木(雄)君、田中君、夏見君がポスター発表をしました。6名とも、自分の研究を堂々と発表していました。

8月18日からの5日間、2年SSHクラスと普通クラスの希望者の生徒が「課題実験夏季集中授業」に参加しました。物理・化学・生物・地学・数学・環境の各コースに分かれ、前半の3日間は東海大学湘南校舎(数学は代々木校舎)で、大学の先生の指導のもと、高度な実習・実験を行いました。後半2日間は、実験してきたことをまとめ、発表会を行いました。難しい内容ながら、高校ではできない実験・実習を、生徒たちは積極的に取り組んでいました。

教具作りでの苦労が報われた瞬間

夏見 拓弥

3年9組 横浜市立南中学校出身

私たちの班が取り組んだ研究は、児童・生徒が理科を学習する中で内容を理解しやすくするための教具を開発するというテーマで2年生の時から活動していました。

私たちは「力学的エネルギー保存則」「直流回路模型」の2つの教具を作りました。でき上がったと思い、試しに動かしてみると装置の一番大事な部分がうまく機能せず、何度も何度もやり直し、長田先生や他のメンバーと話し合いながら、何とか完成させることができました。

当日、高校生だけでなく中学生や保護者の方、大学の先生が私たちのポスター発表を聴きにきました。力学エネルギーを知らない中学生に説明するのは大変でした。私たちの研究テーマが「内容を理解しやすくする」ということだったので、教具を使って説明し理解してくれた時はうれしかったです。大学の先生からは、いろいろなお指摘をいただき、今後はそれをもとに手直しをしていきたいと思っています。今回の経験を、残りの高校生活や卒業後の大学生活に役立てたいと思います。



みんな興味津々で聞いてくれました

デンプンからバイオエタノールを生成

辻 光世

2年9組 江東区立深川第八中学校出身

私は化学コースを選択しました。工学部応用化学科の研究室で、デンプンから最近話題となっているバイオエタノールを生成するという実験を行いました。デンプンを消化酵素のアミラーゼで分解し、単糖の糖液を作りました。そこにイースト菌を加え発酵させ、エタノールを生成しました。生成されたエタノールの量をガスクロマトグラフィーを用いて測定しました。ガスクロマトグラフィーは、混合物の中にどんな物質がどのくらい含まれているのかを測定する装置です。結果は、500gのデンプンから約3mlのエタノールしか精製できませんでした。バイオエタノールを生成し使うことは、本当に地球にやさしいのか疑問に思いました。

大学の実験は、高校では使うことのできない装置を使うことができ面白かったです。また大学での実験や講義は現役の大学生たちから大学生活などを聞くことができ、これからの進路選択に役立ったと思います。



どれくらいエタノールできたかな？

充実した5日間

小川 ルビ

2年9組 港区立高松中学校出身

私は地学コースを選択し、天文について学びました。1日目の講義ではまず星の一生や宇宙の成り立ちについての講義を受けました。2日目は三鷹の国立天文台の見学に行き、さまざまな望遠鏡や実験装置の見学をしました。そして3日目に観測機器についての説明受け、Mitaka というシュミレーションソフトで宇宙の果てを見ました。一番印象に残ったのは、目には見えないけれど宇宙のどこかに存在しているブラックホールの話です。ブラックホールのように宇宙には、まだまだ解明できていないことがたくさんあります。そのため、研究段階のものが多く、理解するのが難しい内容もありました。大学の先生やTA(ティーチング・アシスタント)の方が、わかりやすく親切に教えてくださいました。未知の世界に触れられて楽しかったです。学んだことをまとめて発表したことにより、理解も深まり充実した講座になりました。



国立天文台での見学

お知らせ

後援会『けやき屋食堂・バザー』

ご来場をお待ちしております!!

後援会会長 網中 勝 学年部部长 西 礼子

10月10日(土)、11日(日)両日に開催されます第45回建学祭において、本年も後援会として、けやき屋食堂とバザーの参加を予定しております。

場所 ●けやき屋食堂/B2 食堂 10:00～ ●バザー/B2 物理実験室 10:00～(両日とも)

〈生徒会より〉
建学祭収益金を
ユニセフへ

昨年の建学祭収益金で生徒会はユニセフに127,524円を寄付しました。ユニセフは貧困、紛争などの厳しい中で懸命に生きる子どもたちのためにこの募金を役立てます。日本ユニセフ協会から感謝状をいただきました。建学祭が間近です。今年も協力をいたします。

行事
予定

October 10月

- 1日(木) 後期始業式
- 3日(土) 保護者会・学校評価アンケート(保護者)
- 6日(火) 体育祭予備日1(雨天時授業)
(9/30体育祭実施の場合、振替休日)
- 7日(水) 建学祭開祭式(7限目)
- 8日(木) 建学祭準備、校医相談日
- 9日(金) 建学祭準備
- 10日(土) 第45回建学祭(～11日)
- 12日(月) 体育の日
- 13日(火) 建学祭閉祭式、保護者面談(高2、～11月21日)
- 14日(水) 体育祭予備日2(雨天時授業)
- 15日(木) 学年集会(中3、高3)
- 16日(金) 教育実習(～11月6日)
- 17日(土) 英検(中2、中3、高1、高2、高3)※高1、2は希望者のみ
- 18日(日) 受験生・保護者学校説明見学会(中等部、10:00)
- 22日(木) 東海大学進学説明会(高1、1限)
- 24日(土) 受験生・保護者学校説明見学会(高校、10:00)
- 29日(木) 学年集会(中1、高1)
- 31日(土) スポーツ大会(高2、本校アリーナ)

November 11月

- 1日(日) 学園建学67周年記念式典(湘南校舎)
- 2日(月) 朝礼、建学記念式典
- 3日(火) 文化の日
- 4日(水) 付属推薦合格発表手続期間(高3)
- 5日(木) マナー講座(中1)
- 6日(金) 後援会湘南校舎見学研修会
- 7日(土) 受験生・保護者学校説明見学会(中等部、10:00)
- 12日(木) 一斉公開授業、生徒会立会演説会(1限目)
- 13日(金) 一斉公開授業
- 14日(土) 保護者会(高1)、東海大学付属推薦者保護者会(高3)
- 15日(日) 英検2次
受験生・保護者学校説明見学会(高校、10:00)
- 17日(火) 校医相談日
- 18日(水) 専門医によるカウンセリング
- 19日(木) 月曜日の授業
- 21日(土) スポーツ大会(高3、アリーナ)
- 23日(月) 勤労感謝の日
- 26日(木) 生徒による授業評価アンケート
- 28日(土) 後援会委員総会

English Summer Camp (中等部2年)

編集
後記

「鳩山内閣」が誕生した。圧倒的な「小泉人気」のもとで自民党が圧勝した4年前の衆議院選挙のとき、だれがこの歴史的な政権交代を予想したのだろうか。今回の投票率は70%に迫る勢いだ、20歳代の若者の投票率が5、60歳代の約半分の30%代しかないことが気にかかる。「しらけ世代」といわれ「三無主義※」と批判されたわが世代でさえ20歳代の頃の投票率は60%を越えていた。若者のアパシー(政治的無関心)の責任の一端は教育にあるのかも知れない……(か) ※無気力・無感動・無関心

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ: <http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>